

今月の株式市場見通し

良好な米国企業決算並びに日本企業の収益大幅上方修正を受けて、堅調に始まった4月株式市場も、月央には（好調な企業収益が）市場に織り込み済みであったことによる利食いから上値の重いダラダラとした下げ局面となりました。更に、月の後半から5月連休明けにかけては、中国を始めとする新興国の引き締め気味の金融政策、加えてギリシャを始めとした南欧諸国の所謂「ソブリンリスク」を要因として、市場は、変動率の高い中、大幅な下落を演じるにいたっております。

2008年9月のリーマンショック以降の市場動向を要約してみますと、リーマンショック以降の過剰なまでの「リスク回避相場」（他通貨安ドル高・株式市場の大幅下落）の後、2009年3月からは各国の大胆な金融・財政政策を受けた「極端なリスク選好相場」により、ドルの安全資産から他通貨の株式を始めとするリスク資産に回帰してきました（ドル安他通貨高・株式市場の大幅回復）。しかしながら2010年に入ってから、各国は、各経済状況に応じた金融政策並びに財政政策（所謂、出口戦略）を思考しつつあることから、市場は、その経済・景気状況の違いに応じた「緩やかなリスク選好相場」に移行（ドル高・選別された国の通貨、株式の上昇）しつつあると考えております。

このような見方で現状のギリシャ問題に端を発した急激なリスク回避相場に目を投じてみますと、金融市場の安定性（安定化・流動性対策）と世界経済の成長回帰に対する信認が担保される限りは、現況の金融危機までを煽る現状のリスク回避相場は、2009年の「極端」から2010年の「緩やかな」リスク選好相場への市場の調整局面と考えられます。

一方、上述以外の投資環境に目を移してみますと、世界経済は、アジア新興国から先進国へ景気回復の輪を広げる形で回復基調を強めており、米国経済は、雇用・所得環境の底打ちによる消費増により回復の確信度が高まりつつあり、日本経済も、デフレからの脱却までの時間は要する（2012年を想定）ものの、設備投資の再開、消費の自律回復がみられてきております。

従いまして、株式市場は、2008年秋以降の大規模な各国財政対策の終焉を迎える中で、現状の欧州金融財政危機と金融政策の正常化に伴う経済成長鈍化の水準予想により、その頭を押さえられつつも、第2四半期（4～6月）の企業業績の順調な回復、また内外金利差に基づくドル高（円安）トレンドを織り込む形で、下旬から来月にかけて緩やかに4月の水準をめざした展開（業種は内需関連が市場を先行）を想定しております。

株 練 場

2010年
5月号

西村証券
本店営業部

TEL 075-221-9390

株練場コラム

月というと、どうしても「秋」というイメージが付きものですが、「春の月」「おぼろ月」という季語もあるほか、文部省唱歌「おぼろ月夜」は人気歌手によってお茶のテレビCMで唄われたり…。秋の月に見られるような「透き通った」イメージではありませんが、ぼんやりとした中に暖かみの感じられる“春の月”もまたいいものです。

株式相場に目を転じてみても、「満月で買って新月で売れば、かなりの確率で高いパフォーマンスを得られる」などといわれています。2004年1月から今年4月14日までの「満月」の日と「新月」の日の日経平均株価終値（該当日が土曜の場合は金曜終値、日曜の場合は月曜終値。祝日の場合は翌日終値）をもとに、「満月」→「新月」の騰落を実際に調べてみたところ、78回のうち48回（61.5%）がプラスとなっています。この78回を「満月買い」「新月売り」で繰り返し、期間ごとの値幅を合計すると5,903円のプラスとなります。

逆に「新月」→「満月」で騰落を調べたところ、77回中37回がマイナス。つまり、77回中40回（51.9%）がプラスとなります。プラスの回数だけを見ると「満月買い」と「新月買い」とでさほど差はありませんが、77回の「新月買い、満月売り」を繰り返し、期間ごとの値幅を合計すると5,536円のマイナスになり、「満月買い、新月売り」のほうが、パフォーマンスではっきりと上回る結果になりました。月の満ち欠けも相場全体の波を読む上で参考になりそうです。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.

〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号 加入協会：日本証券業協会 主な事業：金融商品取引業

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮下さい。